

平成 29 年度

長野県総合教育センター研究発表会

～多様化する教育現場の課題解決に取り組む教職員を支援する調査研究～

研究資料（分科会 1）

A

「グローバル時代に求められる力」

を見つけるにはどうしたらよいか

～県内の学校の取組から～

1 全体発表

- ・「グローバル時代」ってどんな時代？
- ・「グローバル時代に求められる力」とは？

教科教育部 専門主事 山口敬之

2 県内学校での実践紹介

教科教育部 専門主事 牛山真弓, 藤田洋子, 高橋廣貴, 松本俊一

3 演習

「グローバル時代に求められる力」を見つけるために

意識したいこと

長野県総合教育センター



教育をタイムリーにチェンジする

<研究テーマ>

「グローバル時代に求められる力」をつけるにはどうしたらよいか ～県内の学校の取組から～

目次

1	「グローバル時代」ってどんな時代？	2
2	「グローバル時代に求められる力」とは？	3
3	各学校ではどのような取組をしているの？	5
4	「グローバル時代に求められる力」をつけるために意識したいこと	7

研究の経過

文献等での調査

セイコーエプソン株式会社での調査

信州大学グローバル教育推進センターでの調査

「JICA 駒ヶ根 国際理解教育指導者セミナー 信州発グローバル教育」への参加

中野市立倭小学校での調査

下諏訪町立社中学校での調査

長野県松本県ヶ丘高等学校での調査

長野県白馬高等学校での調査



1 「グローバル時代」ってどんな時代？

- ・地球が一国のようになる
- ・地球のある地域で、その地域で行うことが最も効率的なことをその地域で行う
- ・その地域で行うことは、その地域向けだけでなく、他の地域向けにも行う

長野県総合教育センター研究発表会
講演会「グローバル社会で生き抜いていける子どもを育てるには」村上憲郎先生 より
2017年(平成29年)2月18日

「グローバル化」とは、今日、様々な場面で多義的に用いられるが、総じて、（主に前世紀末以降の）**情報通信・交通手段等の飛躍的な技術革新**を背景として、政治・経済・社会等あらゆる分野で「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が国境を越えて高速移動し、金融や物流の市場のみならず人口・環境・エネルギー・公衆衛生等の諸課題への対応に至るまで、**全地球的規模で捉えることが不可欠**となった時代状況を指すものと理解される。

グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議 審議まとめ）より
2012年(平成24年)6月4日

経済分野にとどまらず、あらゆる分野でグローバル化が進行し、人・モノ・金・情報や様々な文化・価値観が国境を越えて流動化するとともに、**海外との競争が一層激化**しています。このため、国際社会において、子どもたちが日本人としての自覚を持ち、主体的に生きていく上で必要な資質や能力を育成することが重要となっています。

第2次長野県教育振興基本計画より 2013年(平成25年)3月

- （前略）社会のあらゆる分野でのつながりが国境を越えて活性化しており、我が国の在留外国人数や、海外の在留邦人数は増加している。同様の動きは企業でも見られる。我が国の企業（製造業）の海外売上高比率・生産比率は増加傾向となっており、今後も海外生産の拡大が見込まれる。外資系企業においても、多くの企業が日本での事業内容を拡大する方針が見られる。
- グローバル化の進む中、世界の国々の相互影響と依存の度合は急速に高まっており、貧困や紛争、感染症や環境問題など、**一国のみの問題ではなく国際社会全体に関わるものとして協力して取り組むべき脅威・課題**も少なくない。

「第3期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」より
平成29年9月19日 中央教育審議会教育振興基本計画部会

これから日本の労働者人口が減少するともものが売れなくなってくる。これまでと同じ売り上げを維持するには国内だけでなく**海外でも販売する必要**がある。そのためには外国での暮らしの様子や習慣、制度、考え方等の理解が不可欠である。

また、労働人口の減少によって、**近い将来外国の方を多く雇う必要**が出てくる。そこで外国での仕事に対する考え方や習慣、働き方等を理解しなくてはならない。

セイコーエプソン株式会社での調査より

2 「グローバル時代に求められる力」とは？

我が国がこれからのグローバル化した世界の経済・社会の中にあって育成・活用していくべき「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素が含まれるものと考えられる。

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議 審議まとめ）より

2012年(平成24年)6月4日

- グローバル化の一層の進展が予想される中、国際的視野を持ちグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、英語をはじめとする外国語教育を強化するとともに、豊かな教養や、コミュニケーション能力、課題解決能力、異文化理解の精神等を育むため、学生等の海外留学促進や国際化に向けた先進的な取組を行う学校への支援等が必要である。
- 少子高齢化やグローバル化の一層の進展が予想される中においては、外国人、障害者、高齢者等も含め、多様な人々がそれぞれ得意な分野で能力を発揮するとともに、互いの違いを尊重しつつ支え合うことで、共生社会を創り上げていくことが不可欠である。
- 特に、グローバル化に対応するためには、英語等の語学力に加えて、世界の人々と積極的にコミュニケーションを取り、国際社会の中で、バランス感覚を持ちつつ自ら挑戦する気概をもつこと、日本の歴史、伝統や文化に対する理解を深め、様々な国の人々と理解し合い協働できる姿勢を育むことが重要である。

「第3期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」より

2017年(平成29年)9月19日 中央教育審議会教育振興基本計画部会

- ・ 英語力・・・主に中国，マレーシア，フィリピンの工場があるが，コミュニケーションは英語でとっている。
- ・ ただ，グローバルな人間を，英語をしゃべれるかしゃべれないかだけで判断していない。その国に行ってちゃんと仕事ができるかどうか大切。何かわからないけど伝えるのがうまいという社員もいる。英語はうまくしゃべれないけど何とかしてくる。
- ・ 異文化を理解すること…生活習慣，コミュニケーションスキル，ものの考え方
- ・ 自分の仕事がきちんとできる→自信がもてる
- ・ 人間性。
- ・ フロンティアスピリット

セイコーエプソン株式会社での調査より

- ・英語は大切だけれど、英語だけではない。ただ、英語の論文、インターネットを使った仕事に英語は外せないのも、英語力も大切。
- ・海外に適応する能力。外国人に対しての壁を取り払う。日本についてもきちんと理解する力も大切。長野県のことを自分で説明ができるか。まずは日本語で表現できる力をつけたい。
- ・適切な判断や解決策、粘り強く実行して解決に導く力、価値観を尊重し新たな創造につなげる能力の基礎力をつけて欲しい。
- ・自分が持続的に勉強していく力、素早い変化の中で対応できる力、Tryして失敗しても早く適合する力をつけて欲しい。伝統を残すにしても、周りのことを考えられる人であって欲しい。
- ・メンタル、タフネス、組織（外部環境）になじむ。

信州大学グローバル教育推進センターでの調査より

以上のような調査結果より、私たちは「グローバル時代に求められる力」を以下のように考えました。

コミュニケーション力

伝える力（語学力、伝えようとする意志、自分の意見や考えをもつ）
受け取る力（語学力、受け取ろうという意志）

違いを理解し尊重する力

違いを知る　違いに気付く…自分や自分の周りの理解
受け入れる

課題解決能力

課題を見つける　課題に気付く
課題を探究する

メンタリティ

主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

3 各学校ではどのような取組をしているの？

Concept Map を使って、「即興で自分の考えや気持ちを伝える力」をつける英語の授業

S 中学校英語の授業より

S 中学校では、小学校 1 年生より外国語活動に取り組んでおり、英語に対する興味関心が高い生徒が多い。しかし、対話活動の場面では、単語の羅列や教科書に載っている定型文での表現にとどまってしまう、習った表現を使って、その場で自分の気持ちや考えを述べる即興的なやり取りには消極的な様子があった。この要因として①間違いを恐れ発話できない。②原稿を書いてから話す活動を行っているため書かれたもの以外話せない、という 2 つの理由が考えられる。S 中学校英語科では、グローバル時代に生きる生徒たちにとって、外国語を通して聞いたことや読んだことをもとに自分の気持ちや考えを発信しながら、世界の人々とコミュニケーションできる力を付けることが必要であると考え、「ロボットが人を介護することについて」の文を読み、自分自身の考えをまとめた Concept Map をもとに即興的に伝え合うという授業を行った。Concept Map とは自分の考えを文章ではなく単語で記したり、矢印や線を使って関係性を示したりするものであり、生徒はこのメモをもとに「文を読む」のではなく、できるだけ紙面から目を離しながら自分の考えを述べることに挑戦した。これによって、生徒が、既習表現を駆使しながら自分の考えをグループの友達に伝える姿が見られた。

「パラメンタリーディベートを通して発信力・論理的思考力を高める英語の授業」

A 高校 3 年生の授業より

パラメンタリーディベートとは、一つの論題に対し、肯定と否定チームに分かれ、それぞれの立場から意見を述べ、最後にジャッジが、どちらがより説得力のある主張であったかを判断する言語活動である。授業での論題は、「死刑制廃止、同性婚の合法化」など社会的なものから「退職後は都会より田舎で」のようなものまで多岐にわたって扱っている。基本的には、1 時間の授業の中で、15 分準備、15 分ディベート、15 分のリフレクションで行なうことを目指した即興型のディベートであるが、本時では、論題が難しいため事前に準備する時間を生徒に与えている。生徒は、英単語のリストシートとスピーチシートを使い、ディベートをする。スピーチシートには空所がいくつかあり、その空所を埋めることで、生徒たちは自分のスピーチを完成することができる。パラメンタリーディベートを通して英語で発信する力や論理的思考力を高めることが期待できる。

参観させてもらった授業では、「高齢者が自動車運転免許証を返還することを義務化すべきである。」というテーマについて、3 つのグループに分かれ、それぞれディベートを行っていた。自分の主張を懸命に伝えようとする姿や相手チームが何を言っているのか聞き取ろうと耳を傾ける姿が見られた。このように英語で意見を述べることに躊躇することなく、主体的に活動する姿は、4 月より継続的にパラメンタリーディベートを行ってきた成果ではないかと思われる。

体験に基づいた生の声を聞くことで、違いを理解し他者に意識が向いていった児童達

Y小学校（M先生）の取組より

グローバル時代に必要なことの1つに、自分とは違った文化や生活習慣の中で暮らしている人々を理解することがある。他者理解の第一歩を踏み出して欲しいという願いから、単元名「明日をつくるわたしたち」という10時間の授業を行った。

この単元では、子どもたちがより実感をもって考えられるように、M先生自身のモンゴルでの体験を題材としたり、実際にブータンや南スーダンで働いた経験を持つ外部講師に協力していただいたりして、体験を基にした生の声を聞く機会を設けた。「子どもの生の体験ではないので、実感を伴った理解や自ら行動を起こすということを子どもに期待するのは難しい。だから諦めるというのではなく、人とのつながりの中から、体験をした人の声を少しでも伝えられるように工夫してきました」とM先生は語っています。

単元終了後、「外国人とも仲良くする」「自分も困っている人の役に立つことをしたい」と、具体的な行動まで考えられている児童の姿はあまりなかった。しかし、米作りで得たお金の使い道を考える場面で、「学校にいかれない子に募金をしよう」という発言があり、他者に意識が向き、具体的な行動を考え始めた児童の姿がみられた。

国際交流を通して、「違いを理解し尊重する力」を育む取組

H高校の取組より

H高校国際観光科は、生徒の全国募集や第一線級の講師による講演、地域との強力な連携など様々な取組を行っているが、中でも多くの国や地域から地元を訪れる高校生を受け入れ、積極的に国際交流を行っていることが特徴である。この4年間に交流を行ったのは、台湾(3校)、アフガニスタン、インド(2校)、マレーシア(2校)、ベトナム、アメリカ(4校)、シンガポール、ニュージーランド、イングランド(ブリティッシュスクール)。視察時にも、マレーシアから高校生が交流に来ており、山岳基礎の授業でH高校の生徒が学習した英語を駆使してボルダリング体験をサポートする姿や、交流会においてお互いの学校をビデオやパンフレットで紹介し合う姿が見られた。

H高校では、外国の言葉や文化に強い興味を持つ生徒が、外国人や一流講師と数多く接することで得るものが大きいと考え、本物に触れる機会を大切にしている。この取組によって、生徒はここ1～2年で、完璧な英語でなくとも臆せずに相手の目を見て話せるようになってきたという。

また、全国から集まった生徒が学校や寮で共に日々生活する中で、生徒は日本国内においても地域によって様々な文化の違いがあることに気付くことができる。このように生の異文化交流を数多く体験することは、違いを理解し、広くコミュニケーションを図ろうとする人物の育成において非常に有用であると思われる。

4 「グローバル時代に求められる力」をつけるために意識したいこと

- ・考える人を育てる
- ・効率よく正解を覚え込むのではない
- ・問題そのものを発見する。考え付く
- ・その正解があるかどうかはわからない問題の答えを求めて考え抜く

長野県総合教育センター研究発表会
講演会「グローバル社会で生き抜いていける子どもを育てるには」村上憲郎先生 より
2017年(平成29年)2月18日

- ・参加型にしていく
- ・振り返りを意識化，言語化誰かに伝える，することが大切
- ・体験する → ふりかえる → 一般化する → 応用する
- ・かかわる力がかかわることでしか伝わらない
- ・知識だけではなく考える人を作りたい
- ・教えるのではなくひき出す。気付いたことは忘れない・・・概念を理解する
- ・自ら内発的に気付くことが大切
- ・自分たちで考える

気付き 築き スキルトレーニング のプログラム

「JICA 駒ヶ根 国際理解教育指導者セミナー 信州発グローバル教育」
NIED 国際理解教育センター 伊沢令子先生のお話から



体験し，感じる大切

JICA のセミナーで行われたワークショップを体験しましょう

おわりに

今回，世界がグローバル化していく中で，子どもたちにどのような力をつけていったらよいのか考えてきました。この分科会に参加して，どのようなことを感じられたでしょうか。

「グローバル時代に求められる力」をつけるためには，体験し感じる大切であるといわれています。しかしそれだけで終わることなく，アウトプットすることによって意識化したり整理し再構築したりすることが不可欠になってきます。また，気持ちよくアウトプットをすることを可能にする集団づくりも大切です。伝える力，受け取る力，双方向からのコミュニケーションを日々の授業や生活で意識していきたいです。

今回行ったワークショップは，よく SST や GWT 等で行われるものと同じで，決して目新しいものではありません。違いを理解し尊重する，課題を解決する，主体的・積極的等のメンタリティの部分。どれを見てもこれまでも大切にされてきたことです。違ふとすれば，これからの予測不可能な時代を生き抜く子どもたちの姿，そのために必要なつけない力を意識するというわたしたち教師や大人の視点です。その視点をもつことで，あらゆる教育活動の中で「グローバル時代に求められる力」を育むことができるのではないのでしょうか。